

専任教員の実務経験

氏名	資格・実務経験	教育科目
島屋敷 英修	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	リハビリテーション概論 失語症Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 吃音 臨床作文 言語聴覚障害診断学Ⅰ
東 早代	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	成人聴覚障害Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 臨床心理検査法 言語聴覚障害診断学Ⅰ、Ⅱ 高次脳機能障害Ⅰ、Ⅱ
松田 知里	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	言語発達学 言語聴覚障害総論(小児) 言語聴覚障害概論(小児) 言語聴覚障害診断学Ⅰ、Ⅱ 言語発達障害(知的障害) 言語発達学演習Ⅰ、Ⅱ 機能性構音障害Ⅰ、Ⅱ
河野 真紀	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	言語聴覚障害診断学Ⅰ、Ⅱ 言語発達学演習Ⅰ、Ⅱ 脳性麻痺Ⅰ、Ⅱ 学習障害 器質性構音障害 小児聴覚障害Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 関係法規
木佐貫 太陽	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員 公認心理士	コミュニケーション学 倫理学 臨床心理学 言語聴覚障害診断学Ⅰ、Ⅱ 摂食嚥下障害Ⅰ、Ⅱ 言語聴覚障害学特論Ⅰ、Ⅱ
木村 隆	言語聴覚士 病院における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 日本言語聴覚士協会 会員	言語聴覚障害総論(成人) 言語聴覚障害概論(成人) 言語聴覚障害診断学Ⅰ 運動性構音障害Ⅰ、Ⅱ 摂食嚥下障害Ⅰ、Ⅱ 言語聴覚障害学特論Ⅰ、Ⅲ

# 言語聴覚学科 (3年生)

専門課程(医療分野)

教育課程及び授業時数								
区分	科目	規定単位	計画 単位(時間)	1学年 単位(時間)	2学年 単位(時間)	3学年 単位(時間)	実務	
基礎分野	人文科学	コミュニケーション学	2	2 (30)	2 (30)			○
	社会科学	心理学総論	2	2 (30)	2 (30)			○
		社会福祉学	2	2 (30)	2 (30)			
		統計学	2	2 (30)	2 (30)			
	自然科学	生物学	2	1 (15)	1 (15)			
		物理学	2	1 (15)	1 (15)			
		情報科学	2	2 (30)	2 (30)			
外国語	日常英語	4	4 (60)	4 (60)				
保健体育	医学英語	4	4 (60)		4 (60)			
	保健体育	2	2 (60)	2 (60)				
	小計	12	24 (390)	20 (330)	4 (60)			
専門基礎分野	基礎医学	医学総論	3	1 (15)	1 (15)			
		解剖学	3	2 (60)	2 (60)			
		生理学	3	2 (60)	2 (60)			
		病理学	3	1 (30)	1 (30)			
	臨床医学	内科学	6	1 (30)	1 (30)			
		小児科学	6	1 (30)		1 (30)		
		精神医学	6	1 (30)		1 (30)		
		リハビリテーション医学	6	1 (30)	1 (30)			
		耳鼻咽喉科学	6	1 (30)		1 (30)		
		臨床神経学	6	2 (60)		2 (60)		
	臨床歯科医学	形成外科学	1	1 (15)		1 (15)		
		臨床歯科医学・口腔外科学	1	1 (30)		1 (30)		
		呼吸発声発語系の構造・機能・病態	3	1 (30)		1 (30)		
	音声・言語聴覚医学	聴覚系の構造・機能・病態	3	1 (30)	1 (30)			
		神経系の構造・機能・病態	3	1 (30)		1 (30)		
	心理学	臨床心理学	7	1 (30)	1 (30)			
		臨床心理検査法	7	1 (30)		1 (30)		
生涯発達心理学		7	2 (60)	1 (30)	1 (30)			
学習・認知心理学		7	2 (45)		2 (45)			
言語学	心理測定法	2	1 (15)		1 (15)			
音声学	言語学	2	2 (60)	2 (60)				
音響学	音声学	2	2 (60)	2 (60)				
言語発達学	音響学	2	1 (30)	1 (30)				
社会福祉・教育	聴覚心理学	1	1 (15)			1 (15)		
	言語発達学	1	1 (30)	1 (30)			○	
	社会保障制度	2	1 (30)	1 (30)			○	
	リハビリテーション概論	2	1 (30)	1 (30)			○	
	関係法規	2	1 (15)			1 (15)	○	
	小計	29	35 (960)	19 (555)	14 (375)	2 (30)		
専門分野	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学総論(成人)	4	1 (30)	1 (30)			○
		言語聴覚障害学総論(小児)	4	1 (30)	1 (30)			○
		言語聴覚障害学概論(成人)	4	1 (30)	1 (30)			○
		言語聴覚障害学概論(小児)	4	1 (30)	1 (30)			○
		言語聴覚障害学診断学Ⅰ	4	1 (30)		1 (30)		○
	失語・高次脳機能障害学	言語聴覚障害学診断学Ⅱ	4	1 (30)		1 (30)		○
		失語症Ⅰ	6	1 (30)	1 (30)			○
		失語症Ⅱ	6	1 (30)		1 (30)		○
		失語症Ⅲ	6	1 (30)		1 (30)		○
		失語症Ⅳ	6	1 (30)		1 (30)	1 (30)	○
	言語発達障害学	高次脳機能障害Ⅰ	6	1 (30)		1 (30)		○
		高次脳機能障害Ⅱ	6	1 (30)		1 (30)		○
		言語発達障害(知的障害)	6	1 (30)	1 (30)			○
		言語発達障害(広汎性発達障害)	6	1 (30)		1 (30)		○
		言語発達学演習Ⅰ	6	1 (30)		1 (30)		○
		言語発達学演習Ⅱ	6	1 (30)		1 (30)	1 (30)	○
		脳性麻痺Ⅰ	6	1 (30)		1 (30)		○
	発声発語嚥下障害学	脳性麻痺Ⅱ	6	1 (15)		1 (15)		○
		学習障害	6	1 (30)		1 (30)		○
		音声障害学	9	1 (30)	1 (30)			○
		運動性構音障害Ⅰ	9	1 (30)		1 (30)		○
		運動性構音障害Ⅱ	9	1 (30)		1 (30)		○
		機能性構音障害Ⅰ	9	1 (30)		1 (30)		○
機能性構音障害Ⅱ		9	1 (15)		1 (15)		○	
器質性構音障害		9	1 (30)		1 (30)		○	
摂食・嚥下障害Ⅰ		9	1 (30)		1 (30)		○	
摂食・嚥下障害Ⅱ		9	1 (30)		1 (30)		○	
聴覚障害学	吃音	9	1 (30)		1 (30)		○	
	小児聴覚障害Ⅰ	7	1 (30)	1 (30)			○	
	小児聴覚障害Ⅱ	7	1 (30)		1 (30)		○	
	小児聴覚障害Ⅲ	7	1 (30)		1 (30)		○	
	成人聴覚障害Ⅰ	7	1 (30)	1 (30)			○	
	成人聴覚障害Ⅱ	7	1 (30)		1 (30)		○	
	成人聴覚障害Ⅲ	7	1 (15)		1 (15)		○	
補聴器・人工内耳	7	1 (30)			1 (30)	○		
臨床実習	視覚・聴覚二重障害	12	1 (15)			1 (15)	○	
	臨床実習	12	12 (480)			12 (480)		
	小計	44	48 (1500)	8 (240)	22 (615)	18 (645)		
選択必修分野	言語聴覚障害学特論Ⅰ	8	1 (30)			1 (30)	○	
	言語聴覚障害学特論Ⅱ	8	1 (30)			1 (30)	○	
	言語聴覚障害学特論Ⅲ	8	1 (30)			1 (30)	○	
	専門臨床特論Ⅰ(画像診断学)	8	1 (30)		1 (30)			
	専門臨床特論Ⅱ(薬理学)	8	1 (15)			1 (15)		
	専門臨床特論Ⅲ(基礎運動学)	8	1 (15)			1 (15)		
	専門臨床特論Ⅳ(栄養学)	8	1 (15)			1 (15)		
	見学実習	8	1 (40)	1 (40)			○	
	評価実習	8	3 (120)		3 (120)		○	
	症例演習	8	1 (30)			1 (30)	○	
臨床作文	8	1 (30)	1 (30)			○		
	小計	8	13 (385)	2 (70)	5 (165)	6 (150)		
	合計	93	120 (3235)	49 (1195)	45 (1215)	26 (825)		

科目名: 聴覚心理学(前期)

授業形態: 講義

担当教員: 樋渡 麻衣

1単位

**【授業概要】** 聴覚の適当刺激は音波である。この科目ではまず、音の知覚を理解するために必要な知識として、我々の身体が音の情報処理をどのようにしているかについて概要を述べる。次に「言語聴覚士のための聴覚心理学」という観点から、聴覚の心理物理学について解説する。

**【到達目標】** 聴覚心理について物理学的側面・心理的側面の両方を理解する。

**【授業の進め方】**

回数	授業内容	担当教員
1	音の心理物理学	樋渡
2	可聴範囲	樋渡
3	音の三要素、グループワーク	樋渡
4	弁別閾と比弁別閾、他	樋渡
5	マスキング	樋渡
6	両耳の聞こえ(グループワーク)、環境と聴覚	樋渡
7	国家試験対策①	樋渡
8	国家試験対策②	樋渡
9	定期試験	樋渡

**【授業外学修】** 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

**【教科書名】** 「言語聴覚士テキスト 第3版」(医歯薬出版) 独自の資料

**【参考図書】**

**【評価基準】** 定期試験100%

科目名： 関係法規(後期)

授業形態： 講義

担当教員： 河野 真紀・柳田 明日香  
1単位

【授業概要】 言語聴覚士法と、臨床に必要な関係法規を学ぶ。

【到達目標】 言語聴覚士法を理解し、国家試験および病院業務に対応できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	総則 免許	河野
2	業務等 罰則	河野
3	言語聴覚士法施行規則	河野
4	業務	河野
5	まとめ	河野
6	社会保障制度Ⅰ	柳田
7	社会保障制度Ⅱ	柳田
8	社会保障制度Ⅲ	柳田
9	定期試験	河野・柳田

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

「言語聴覚士国家試験出題基準」(医歯薬出版)

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】

定期試験100%

【実務経験】

言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加(河野)

科目名: 言語聴覚障害診断学Ⅱ(前期)

授業形態: 講義

担当教員: 木佐貫 太陽

1単位

- 【授業概要】** 成人分野における失語症、高次脳機能障害を中心に、評価と診断について学ぶ。検査の概要と背景理論を学び、グループワークと実技を通して内容の理解を深める。本講義中に、各検査の実施時間は設けない。臨床に向けた実施は各自で行うこと。多くのグループワークの時間が設けられているため、能動的な参加を期待する。
- 【到達目標】** 言語聴覚士が対象とする障害(成人分野)に対して、専門分野の統合的な理解を深める。特に失語症を含む高次脳機能障害の評価の選択と実施、訓練プログラムの立案ができるようになる。評価・診断の結果をグループでレポートにまとめ、発表することができるようになる。

**【授業の進め方】**

回数	授業内容	担当教員
1	評価・診断学概論、診療ガイドライン	木佐貫
2	評価・診断の倫理、評価の技法	木佐貫
3	標準的言語治療、EBP	木佐貫
4	症状の復習、失語症の検査	木佐貫
5	失語症構文検査、重度失語症検査	木佐貫
6	認知神経心理学的アプローチ①	木佐貫
7	認知神経心理学的アプローチ②	木佐貫
8	SALA失語症検査①	木佐貫
9	SALA失語症検査②	木佐貫
10	認知神経心理学的アプローチ 検査演習	木佐貫
11	SLTA 検査結果分析演習①(グループワーク)	木佐貫
12	SLTA 検査結果分析演習②(グループワーク)	木佐貫
13	訓練立案演習①	木佐貫
14	訓練立案演習②	木佐貫
15	講義まとめ、国家試験対策	木佐貫
16	定期試験	木佐貫

- 【授業外学修】** 予習: 直前講義の内容を確認しておくこと(0.5時間)  
復習: 講義内容について、当日中に資料を見直すこと(0.5時間)  
グループワークで使用するワークシートは講義終了後に提出し、進捗状況を教員と共有すること。
- 【教科書名】** 「なるほど!失語症の評価と治療 検査結果の解釈から訓練法の立案まで」(金原出版)
- 【参考書名】** 「言語聴覚療法 評価・診断学」(医学書院)  
「言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編」(建帛社)  
「脳卒中ガイドライン2021」(日本脳卒中学会・共和企画)  
「症例!失語症のリハビリテーション タイプ別23症例の言語訓練」(新興医学出版社)
- 【評価基準】** 定期試験(100%)
- 【実務経験】** 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名: 失語症Ⅳ(前期)

授業形態: 講義

担当教員: 島屋敷英修・木佐貫太陽  
1単位

【授業概要】 失語症のメカニズムや病態、検査法などの知識を基に評価、訓練計画、訓練、再評価ができるように失語症について総合的に学ぶ。

【到達目標】 失語症に関する基礎知識や検査法を理解し、DVDによる症例分析を行う。言語聴覚士の臨床の視点をしっかり持てるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	1,2年次の学習の復習、及び評価実習の反省	島屋敷
2	症例DVDによるスクリーニング所見分析①(導入時)	島屋敷
3	症例DVDによるスクリーニング所見分析②(口腔分析)	島屋敷
4	症例DVDによるスクリーニング所見分析③(口腔顔面他分析)	島屋敷
5	症例DVDによるスクリーニング所見分析④(発声発語器官 全身状態)	島屋敷
6	症例DVDによるスクリーニング所見分析⑤(学生によるスクリーニング場面)	島屋敷
7	症例DVDによるスクリーニング所見分析⑥(評価の観点)①	島屋敷
8	症例DVDによるスクリーニング所見分析⑦(評価の観点)②	島屋敷
9	症例DVDによるSLTA分析(記録)	島屋敷
10	症例DVDによるSLTA分析(症例報告書)	島屋敷
11	失語症の言語治療①訓練の方法	島屋敷・木佐貫
12	失語症の言語治療②訓練の実際	島屋敷・木佐貫
13	失語症の言語治療③様々な訓練	島屋敷・木佐貫
14	失語症の言語治療④訓練計画書の書き方	島屋敷・木佐貫
15	失語症の言語治療⑤頸部マッサージ	島屋敷
16	定期試験	島屋敷

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)  
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「言語聴覚療法シリーズ4 失語症」(建帛社)

「脳卒中後のコミュニケーション障害」(協同医書出版株式会社)

【参考書名】 「標準理学療法学・作業療法学 言語聴覚障害学 別巻 脳画像」(医学書院)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名: 言語発達学演習Ⅱ(前期)

授業形態: 講義・実技

担当教員: 河野 真紀・松田 知里  
1単位

【授業概要】 小児の検査法を学び、実習及び臨床能力を養う。

【到達目標】 実際の臨床現場にて使用できるよう、知識と技術を高める。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	田中・ビネー知能検査のアセスメント概論	河野
2	田中・ビネー知能検査の演習・記録方法①	河野
3	田中・ビネー知能検査の演習・記録方法②	河野
4	田中・ビネー知能検査の演習・記録方法③	河野
5	田中・ビネー知能検査の分析	河野
6	ITPA言語学習能力診断検査	河野
7	KIDS乳幼児発達スケール/津守・稲毛式乳幼児精神発達診断について	河野
8	新版K式発達検査について/フロステッグ視知覚発達検査について/LCSAの復習	河野
9	WISC-IVのアセスメント概論	松田
10	WISC-IVの演習・記録方法①	松田
11	WISC-IVの演習・記録方法②	松田
12	WISC-IVの演習・記録方法③	松田
13	WISC-IVの分析①	松田
14	WISC-IVの分析②	松田
15	WPPSIについて/質問応答関係検査の概要	松田

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に検査の対象となる領域について確認を行う。(約0.5時間)  
復習:手順や手技などを、確認しなおす。(約0.5時間)

【教科書名】 各検査マニュアル

【参考書名】 独自の資料

【評価基準】 授業態度100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名: 吃音(前・後期)

授業形態: 講義

担当教員: 島屋敷 英修

1単位

【授業概要】 吃音に関する基礎的知識を学ぶ。前期に基礎と症状を、後期に訓練法を中心に学ぶ。

【到達目標】 吃音についての正しい知識を身に付け、将来臨床が出来るようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	吃音者の実態 DVD視聴(成人吃音)	島屋敷
2	吃音者の実態 DVD視聴(小児吃音)	島屋敷
3	吃音者の心理と生活	島屋敷
4	吃音の定義 吃音とは何か	島屋敷
5	進展層とトラック	島屋敷
6	吃音のさまざまな症状と吃音者の状態	島屋敷
7	発吃時の吃音症状とそれを取り巻く要因	島屋敷
8	吃音の原因論(1) 歴史的研究	島屋敷
9	吃音の原因論(2) 歴史的研究と現代の考え方	島屋敷
10	指導・訓練法(1) 吃音訓練の考え方	島屋敷
11	指導・訓練法(2) 環境調整法・遊戯療法	島屋敷
12	指導・訓練法(3) 吃音軽減訓練 他	島屋敷
13	指導・訓練法(4) 統合訓練 他	島屋敷
14	吃音年表によるメンタル・リハーサル法	島屋敷
15	メンタル・リハーサルにおけるリラクゼーション	島屋敷
16	定期試験	島屋敷

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、指示されたテーマについて自分の考えを持つ(0.5時間)  
復習:その日の授業内容についてノートをみながら振り返り、自らの意見を持つ(約0.5時間)

【教科書名】 「言語聴覚療法シリーズ13 改訂 吃音」(建帛社)

【参考書名】 「間接法による吃音研究法」(三輪書店)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加



科目名: 補聴器・人工内耳(前期)

授業形態: 講義・実習

担当教員: 手塚征宏・下田代秀政  
1単位

【授業概要】 聴覚系の構造・機能・病態について復習し、理解を深める。  
また補聴器・人工内耳の基本的な仕組みや聴覚機構に対する影響を正確に理解することにより、  
補聴器・人工内耳の適応や合併症、フィティング、リハビリテーション等について  
臨床の現場で要求される知識および応用力を養う。

コ

【到達目標】 単なる用語の暗記にとどまることなく、聴覚器官の解剖・聴覚生理・病態・疾患学と補聴器・人工内耳の基礎知識をつなげ、  
理論的に説明できる能力を身に着ける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	体外装置・体内装置	手塚
2	人工内耳の仕組み・音声情報処理法	手塚
3	EAS・人工中耳	手塚
4	適応基準・医学的検査	手塚
5	聴覚検査・言語検査、その他の検査	手塚
6	人工内耳手術、EAS/人工中耳の適応と手術	手塚
7	術前リハビリテーション	手塚
8	人工内耳のプログラミング手法・装用指導、人工内耳装用効果の評価	手塚
9	まとめ	手塚
10	補聴器の歴史と構造①	下田代
11	補聴器の歴史と構造②	下田代
12	補聴器 周波数について①	下田代
13	補聴器 周波数について②	下田代
14	イヤーマールド作成①	下田代
15	イヤーマールド作成②	下田代
16	定期試験	下田代・手塚

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)  
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 独自の資料

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名: 視覚・聴覚二重障害(集中)

授業形態: 講義

担当教員: 良久 万里子  
1 単位

【授業概要】 視覚・聴覚二重障害を理解し、視覚・聴覚二重障害者とのコミュニケーションスキルを高める。  
視覚・聴覚二重障害者の困難やニーズに対してのサポート力を高める。

【到達目標】 視覚・聴覚二重障害の患者様とのコミュニケーションスキルを高めると共に、  
視覚・聴覚二重障害者についての助言および他機関との連携を図れるようになる。  
視覚・聴覚二重障害の生活に対しての相談・助言・環境調整ができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	視覚・聴覚二重障害の定義(障害の状態、障害の程度による分類、発症時期・順序による分類)	良久
2	視覚・聴覚二重障害者のコミュニケーション方法	良久
3	視覚・聴覚二重障害者の困難とニーズ	良久
4	視覚・聴覚二重障害者の支援①(疑似体験等)	良久
5	視覚・聴覚二重障害者の支援②(福祉サービス等)	良久
6	視覚・聴覚二重障害者の移動介助方法	良久
7	視覚・聴覚二重障害者の実態(数、発症原因)	良久
8	視覚・聴覚二重障害者の社会資源の活用、まとめ	良久
9	定期試験	良久

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)  
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)  
配付資料

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】 定期試験80% 授業態度・提出物20%:積極的な授業への参加

科目名: 臨床実習(前・後期)

授業形態: 実習

担当教員: 島屋敷 英修  
12単位

【授業概要】 病院や施設にて臨床実習を行う。

【到達目標】 臨床実習を通して、言語聴覚士の仕事全般を習得する。

【授業の進め方】

授 業 内 容	
1) 病院にて合計12週の臨床実習を行う。	
2) 実習内容:	
臨床実習 I II	
①言語聴覚士の評価・言語病理学的診断・訓練の実際について学習する。	
②GOAL設定及び、言語訓練プログラムを立案し、その一部を担当する。	
③ポイントを押さえた訓練記録・経過報告書の作成が適切にできる。	
3) 目的:実習指導者の指導・監督のもとに評価・言語病理学的診断、言語訓練プログラムの立案について学び、実際に学生が評価・訓練の一部を担当する。 さらに画像診断による検査所見の見方、その解釈、言語訓練記録のまとめ方、訓練経過報告書の作成などを学ぶ。加えて、ケースカンファレンスで症例報告の仕方を学習する。	
4) 実習教育者	
臨床実習教育者・専任教員	

【授業外学修】 予習:実習に臨む前に、該当する教科書・資料等を確認し、必要な実技等の確認を行う。(約1時間)  
復習:一日の実習内容を整理し、不十分だった点など理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】

【実務経験】

実習成績100%

言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名: 言語聴覚障害学特論Ⅰ(前期)

授業形態: 講義

担当教員: 木佐貫 太陽  
1単位

**【授業概要】** 国家試験に向けて、科目別試験及び国家試験を想定した模擬試験を実施する。  
誤った箇所は分析を行い、調べ学習後に訂正ノートを提出する。

**【到達目標】** 運動性構音障害と摂食嚥下障害の訓練を理解し、実習で担当する症例に必要な訓練を選択し、実施できることを目標とする。

**【授業の進め方】**

回数	授業内容	担当教員
1	基礎(解剖学・生理学)	木佐貫
2	基礎(小児科学・精神医学・リハビリテーション医学)	木佐貫
3	基礎(耳鼻咽喉科学・臨床神経学)	木佐貫
4	基礎(形成外科学・臨床歯科学)	木佐貫
5	基礎(病理学・内科学)	木佐貫
6	基礎(臨床心理学・生涯発達心理学・心理測定法・学習認知心理学)	木佐貫
7	基礎(言語発達学・医学総論・社会福祉・教育学)	木佐貫
8	基礎(音声学・言語学)	木佐貫
9	基礎(音響学・聴覚心理学)	木佐貫
10	専門(失語症・高次脳機能障害)	木佐貫
11	専門(言語聴覚障害学総論・聴覚医学総論)	木佐貫
12	専門(言語発達障害・小児重複障害・吃音)	木佐貫
13	専門(音声障害・小児構音障害)	木佐貫
14	専門(補聴器・人工内耳・小児聴覚障害・成人聴覚障害)	木佐貫
15	専門(成人構音障害・摂食・嚥下障害)	木佐貫
16	試験振り返り	木佐貫

**【授業外学修】** 予習:教科書や過去問を中心に内容を理解する(3時間)  
復習:間違った部分の分析を行い、正しく修正する(3時間)

**【教科書名】** 「言語聴覚士テキスト第3版」(医歯薬出版)

**【参考書名】** 「言語聴覚士国家試験過去問題集」(大揚社)

**【評価基準】** 総合評価100%:小テストの平均値を成績とする。  
合格基準に満たなかった場合、国家試験対策の課題を追加で実施する。

**【実務経験】** 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名: 言語聴覚障害学特論Ⅱ(前期)

授業形態: 講義

担当教員: 木村 隆・木佐貫 太陽  
1単位

**【授業概要】** 運動性構音障害及び摂食嚥下障害の訓練について学ぶ。  
特に臨床実習で必要となる訓練技術を習得するために、目的や方法をしっかりと理解した上で、  
学生間でロールプレイを交えながら、技術を習得する。

**【到達目標】** 運動性構音障害と摂食嚥下障害の訓練を理解し、実習で担当する症例に必要な訓練を選択し、  
実施できることを目標とする。

**【授業の進め方】**

回数	授業内容	担当教員
1	運動性構音障害の訓練1(呼吸機能に対する訓練)	木村
2	運動性構音障害の訓練1(呼吸機能に対する訓練)	木村
3	運動性構音障害の訓練2(発声機能に対する訓練)	木村
4	運動性構音障害の訓練2(呼吸機能に対する訓練:LSVTを中心に)	木村
5	運動性構音障害の訓練3(鼻咽腔閉鎖機能に対する訓練)	木村
6	運動性構音障害の訓練4(口腔構音機能に対する訓練)	木村
7	運動性構音障害の訓練4(口腔構音機能に対する訓練:CIセラピーを中心に)	木村
8	運動性構音障害の訓練5(発話の訓練:発話速度調整法を中心に)	木村
9	間接的嚥下訓練1	木村
10	間接的嚥下訓練2	木村
11	直接的嚥下訓練1(横向き嚥下・交互嚥下・うなづき嚥下・複数回嚥下・一側嚥下・咀嚼訓練・ 氷なめ訓練・摂食類似刺激訓練)	木村
12	直接的嚥下訓練2(摂食ペース・一口量の調整・スライス法・嚥下の意識化・食事介助の工夫)	木村
13	嚥下食について(嚥下調整食分類・嚥下ピラミッド・とろみの分類)	木村
14	小児の摂食嚥下訓練1	木佐貫
15	小児の摂食嚥下訓練2	木佐貫
16	定期試験	木村

**【授業外学修】** 予習:講義に臨む前に、該当する教科書の単元を読む(0.5時間)

復習:その日の授業内容を振り返りながら、内容の理解に努める(0.5時間)

**【教科書名】** 「ディサースリア臨床標準テキスト」(医歯薬出版) 「スピーチ・リハビリテーションⅠ、5」(インテルナ出版)  
「嚥下障害 ポケットマニュアル 第4版」(医歯薬出版)

**【参考書名】** 独自の資料

**【評価基準】** 定期試験100%

**【実務経験】** 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名: 言語聴覚障害学特論Ⅲ(後期)

授業形態: 講義

担当教員: 木村 隆

1単位

【授業概要】 国家試験を想定した問題を解きながら、自分自身の苦手な分野を把握する。  
また誤りに対してどのような点を誤っているのかを把握し、調べ学習を行う。

【到達目標】 200問に対して5時間、集中して問題を解けるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	第1回模擬試験	木村
2	第2回模擬試験	木村
3	第1回卒業試験	木村
4	第3回模擬試験	木村
5	第2回卒業試験	木村
6	第4回模擬試験	木村
7	第3回卒業試験	木村
8	第5回模擬試験	木村
9	第6回模擬試験	木村
10	統一模擬試験	木村
11	第7回模擬試験	木村
12	第8回模擬試験	木村
13	第9回模擬試験	木村
14	第4回卒業試験	木村
15	第10回模擬試験	木村

【授業外学修】 予習:教科書や過去問を中心に内容を理解する(3時間)  
復習:間違った問題の分析を行い、正しく修正する。(3時間)

【教科書名】 独自の問題

【参考書名】 「言語聴覚士国家試験問題(過去問)」「言語聴覚士テキスト 第3版」(医歯薬出版)

【評価基準】 卒業試験100%

【実務経験】 言語聴覚士、病院における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名: 専門臨床特論Ⅱ(薬理学)(前期)

授業形態: 講義

担当教員: 中甫木 直樹  
1単位

**【授業概要】** 薬物に関する一般的な知識を身につける。特にリハビリテーション医学において汎用されている薬剤について、薬物の効果、作用機序、副作用、臨床での使用方法などを学び、臨床の現場において役立つ総合的な知識を学ぶ。また、薬理学を学ぶにあたり必要な、生理学、病理学の復習を兼ねた包括的な講義とする。

**【到達目標】** 薬理に関する基礎知識(生理学的または病理学的基礎知識を含む)考え方を修得する。

**【授業の進め方】**

回数	授業内容	担当教員
1	薬(薬剤)に対する意識・薬はどのように効いているのか	中甫木
2	薬の運命-吸収・分布・代謝・排泄-・薬の正しい飲み方・薬を水に溶かしてみる	中甫木
3	麻酔薬・睡眠薬・解熱鎮痛剤・向精神薬・アルコールの作用・抗てんかん薬	中甫木
4	抗パーキンソン病薬・認知症薬・自律神経作用薬・筋弛緩薬	中甫木
5	消化器に作用する薬・動脈硬化の予防・抗高脂血症薬	中甫木
6	血圧を下げる薬・心臓に作用する薬	中甫木
7	糖尿病の薬・脳卒中の予防の薬・呼吸器に作用する薬	中甫木
8	まとめ及び国家試験対策	中甫木
9	定期試験	中甫木

**【授業外学修】** 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)  
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

**【教科書名】** 「超図解 薬はなぜ効くか」(医歯薬出版)

**【参考書名】**

**【評価基準】** 定期試験100%

科目名: 専門臨床特論Ⅳ(栄養学)(前期)

授業形態: 講義

担当教員:

森園 由香

1単位

【授業概要】 食事療養の実際を知り、チーム医療におけるリハビリテーション栄養の重要性と役割を学ぶ。

【到達目標】 栄養学の基礎及び疾患の食事療養の実際を理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	栄養食事療法の基礎 食と健康	森園
2	栄養食事療法とリハビリテーション	森園
3	リハビリテーション栄養ケアマネジメント①	森園
4	リハビリテーション栄養ケアマネジメント②	森園
5	診療報酬・介護報酬と栄養食事療法	森園
6	主な疾患の栄養食事療法	森園
7	NSTと地域連携	森園
8	嚥下食実習	森園
9	定期試験	森園

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)  
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「PT・OT・STの為のリハビリテーション栄養」(医歯薬出版)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%



科目名: 症例演習(後期)

授業形態: 講義

担当教員:

全専任教員

1単位

**【授業概要】** 臨床実習における症例報告を行う。  
発表用のレジュメ、パワーポイントでの発表資料を作成する。

**【到達目標】** 検査、評価、目標設定、訓練計画立案、訓練実施に至るまでの一連の流れを、要約し共有できるようになる。  
他者の介入内容について疑問を持ち、質問ができるようになる。

**【授業の進め方】**

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション	全専任教員
2	レジュメ作成①	全専任教員
3	レジュメ作成②	全専任教員
4	パワーポイントにて発表資料作成①	全専任教員
5	パワーポイントにて発表資料作成②	全専任教員
6	症例報告①	全専任教員
7	症例報告②	全専任教員
8	症例報告③	全専任教員
9	症例報告④	全専任教員
10	症例報告⑤	全専任教員
11	症例報告⑥	全専任教員
12	症例報告⑦	全専任教員
13	症例報告⑧	全専任教員
14	症例報告⑨	全専任教員
15	総評	全専任教員

**【授業外学修】** 臨床実習での介入記録、調べた内容を整理して、発表内容に反映  
復習:授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

**【教科書名】**

**【参考書名】** 「言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編・小児編(建帛社)」

**【評価基準】** プレゼンテーション100%